平成19年3月期
中間決算説明

2006年11月20日

株式会社アドバンスト・メディア

目次

Ⅰ. はじめに／当社事業ご案内

Ⅱ. 中間期実績ハイライト (連結・単体)

Ⅲ. 中間期実績ハイライト (セグメント別)

Ⅳ. 当社の戦略ついて

Ⅴ.参考資料

目次

Ⅰ．はじめに／当社事業ご案内

Ⅱ．中間期実績ハイライト（連結・単体）

Ⅲ．中間期実績ハイライト（セグメント別）

Ⅳ．当社の戦略ついて

Ⅴ.参考資料

はじめに

私ども株式会社アドバンスト・メディア（以下ＡＭＩ）は、2005年6月に東証マザーズに上場。
その後、音声事業を進めている当社が投資家各位に申し上げている基本戦略は以下の通りです。

①最終顧客が使えるソフト、事業を自ら創り出す⇒創れ戦略

音声認識技術の開発は多額の資金が必要で、当社の03年3月期まで（上場前）の累積損失は20億円を超えました。これまでの開発投資の大半は音声認識の中核部分を担うソフトの開発が中心でしたが、「未成熟の市場に中核ソフトだけを投入しても売上をつくれない」という判断から、最終顧客が使えるソフト並びに事業を自ら創り出す方向にシフトし、2004年3月期以降、単独で単年度黒字化を達成。

②当社製品を用いて事業を伸ばす企業に投資する⇒伸ばせ戦略

当社音声認識技術を採用することで、事業の活性化が期待できる事業会社に投資をし、当社製品の成功の果実を販売時に加え、事業成功（投資リターン）で回収するというビジネスモデルを展開。

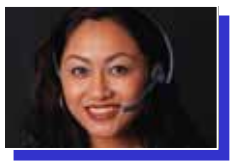
当社事業のご案内（連結ベース）

セグメント名		事業の内容
一般事業	**音声事業：** **最終顧客が使えるソフトを製品化して販売** **06年3月期実績**　売上高18.9億円	**【創業期からの強みある事業】** 米国MTI社（Multimodal Technologies, Inc. の略で当社の持分法適用会社）と共同開発したAmiVoice音声認識エンジンを中心とした音声認識ソリューションのライセンス販売及び音声認識システムの利用に関わる開発、コンサルティング、サービスの提供。
	テレマーケティング事業： **当社音声認識ソフトを使って差別化** **対象はレガシー事業** **06年3月期実績**　売上高6.7億円	**【「音声認識」の強みを活かした多角化事業】** 電話利用のアウトバウンド営業等により、電話回線販売やオフィス用品通販等を行う。 ①アウトバウンド営業のコールセンター運営事業 ②電話回線やオフィス用品通販
	ボイスドメイン事業： **当社音声認識ソフトを使って新市場を創造** **06年3月期実績**　売上高0.15億円	**【音声認識による声による検索の新サービス事業】** 携帯電話上の声によるURL接続サービスを行う ①カスタム検索サービス ②ネット広告事業
投資事業	**ボイスキャピタルソリューション事業：** **当社製品を用いて事業を創り出す、事業を活性化する企業に投資** **07年3月期より開始**	**【音声事業と相乗効果の狙える事業投資】** ①インキュベーション ②コンサルティング

事業分野のご紹介

■放射線／病理画像レポート、電子カルテ（大病院、診療所、歯科クリニック）、調剤・薬剤等

・AmiVoice Ex



■次世代コールセンターソリューション

・AmiVoice CallScriber
・AmiVoice Assist
・AmiVoice Interactive Responder (AIR)

・AmiVoice Reporter
・AmiVoice Dialer
・AmiReception
・AmiVoice BizMail
・AmiVoice SceneDirector

ｹﾞｰﾑ/
ｴﾝﾀｰﾃｲﾒﾝﾄ/
教育

医療

議事録

CTI

モバイル

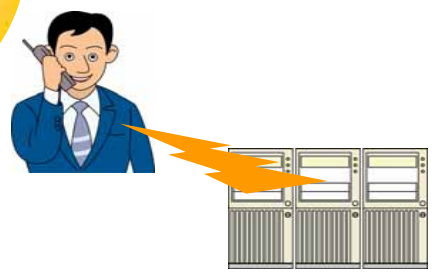
ﾋﾞｼﾞﾈｽ
ｿﾘｭｰｼｮﾝ

AmiVoice
Advanced Media, Inc

■ゲームソフト，ロボット，教育ソフト
・AmiVoice CALL

■議会議事録
・AmiVoice Rewriter
■音声対応HP、バリアフリー、オペレーションフリー、人が公共施設や家庭で「簡単に」「便利に」必要な公の情報を入手できるインフラ等

携帯DSRによるモバイルサービス（いつでも、どこでも、だれでもが「便利」「役に立つ」「ありがたい」）



■コンプライアンス、等

目次

Ⅰ. はじめに／当社事業ご案内

Ⅱ. 中間期実績ハイライト (連結・単体)

Ⅲ. 中間期実績ハイライト (セグメント別)

Ⅳ. 当社の戦略ついて

Ⅴ.参考資料

07年3月期中間実績・通期ハイライト（連結）

07年3月中間実績ハイライト

【売上・利益の状況】

	07/3中間期	06/3中間期
■売上高	1,584百万円	ー
■原価	961百万円	ー
■売上総利益	622百万円	ー
■営業利益	▲551百万円	ー
■当期利益	▲627百万円	ー

※連結中間業績発表は07/03中間期より

07年3月期通期ハイライト

【売上・利益の状況】

	07/3期（予）	06/3期
■売上高	3,780百万円	2,566百万円
■前期比	47.3%	71.3%
■原価	ー	1,321百万円
■売上総利益	ー	1,245百万円
■営業利益	70百万円	▲107百万円
■当期利益	▲50百万円	▲131百万円

<中間実績ポイント>

■売上高： 音声事業は医療分野が予想を上回ったものの、その他の分野などは予想を下回る。連結子会社エムシーツー株式会社の売上堅調。

■売上総利益： 音声事業において中国語・タイ語などの多言語展開、案件の大型化による開発コストの計上、また開発ソフトの償却が発生、売上原価上昇。

■営業損失： 音声事業、テレマーケティング事業ともに販売管理費が当初見込みを上回った。音声事業の販売管理費の増加の主な理由はビジネスチャンスの拡大に伴い、研究開発費、営業及び管理部門の人員強化に関する費用、イベント出展に伴う販売促進費を当初計画よりも積極的に投入した。また、MTI社との提携関係を深化させ、プログラム修正権や永続的独占販売権（日本語音声認識製品）を取得した結果、関連する減価償却費が発生。テレマーケティング事業の販売管理費の増加は直販ビジネスの拡大のための宣伝広告費増などが起因。

■当期損失：子会社エムシーツー株式会社の税負担のため。

<通期計画ポイント>

■売上は 当社ビジネスが4Qに集中する構造のため、計画通りに推移する予定。

■営業利益は、中間期において販売管理費率や原価率が上昇したものの、これは先行投資的なもので、下期は先行投資の効果が発揮され、利益率が向上し、当初見込みを達成する予定。

07年3月期中間実績（連結）① －P/L－

【ハイライト】
・06年3月期より連結決算開始。
・のれん償却というマイナス要因はあるものの、テレマーケティング事業の売上は堅調に推移。
（競合他社よりも売上総利益率が高く、当社は40%という高水準を維持。）

（単位：百万円）

	06年3月期		07年3月期		
	中間期	通期	中間期	通期（予）	通期増減
売上高	－	2,566	1,584	3,780	47.3%
原価		1,321	961	－	－
売上総利益		1,245	622	－	－
営業利益	－	△107	△551	－	－
利益率	－	△4.2	△34.9%	－	－
経常利益	－	△59	△558	70	－
利益率	－	△ 2.3	△35.2%	1.8%	－
当期利益	－	△131	△627	△50	－
利益率	－	△ 5.1	△39.5%	△1.3%	－

07年3月期中間実績（単体）②－P/L－

【ハイライト】
・中間期は医療分野の売上は予想を上回ったものの、エンターテインメント及び教育、コールセンタ、ビジネス、モバイル分野などの売上は予想を下回る。
・利益の牽引となるライセンス販売の売れ行きが横ばい。CTI分野、ビジネス分野の受託開発の増大による利益率低下。中間期の業績予想を修正したが、下半期の当社製品・ソリューションの販売、及び、受注・引き合いが現時点で好調に推移すると見ており、現時点で通期業績は当初予想を堅持。

（単位：百万円）

	05年3月期		06年3月期		07年3月期		
	中間期	通期	中間期	通期	**中間期**	通期（予）	増減
売上高	509	1,498	914	1,946	**720**	2600	33.6%
原価	237	583	355	773	**472**	－	－
売上総利益	272	915	559	1,172	**247**	－	－
営業利益	△126	90	48	116	**△460**	－	－
利益率	△24.8	6.0	5.3	6.0	**△63.8%**	－	－
経常利益	△125	70	48	160	**△444**	180	12.5%
利益率	△24.5	4.7	5.3	8.2	**△61.6%**	6.9%	－
当期利益	△125	68	47	154	**△444**	180	16.9%
利益率	△24.6	4.6	5.2	8.0	**△61.6%**	6.9%	－

07年3月期中間実績（連結）③－B/S－

【ハイライト】
・06年3月期より連結決算開始。
・ＢＳは流動資産が減少したものの、大きな変化はなし。

（単位：百万円）

	06年3月期		07年3月期		
	05年9月	通期	中間期	構成比（%）	備考
固定資産	－	2,731	3,415	53.3	ソフトウェアの増加
流動資産	－	4,090	2,985	46.6	現預金の減少
資産合計	－	6,822	6,400	100.0	
固定負債	－	0	186	2.9	MTI社の未払金が発生
流動負債	－	1,380	1,193	18.6	子会社の前受金が減少
負債合計	－	1,380	1,379	21.5	
資本金	－	3,367	3,479	54.3	
資本合計	－	5,397	5,006	78.2	
負債及び資本合計	－	6,822	6,400	100.0	

07年3月期中間実績（単体）④ －B/S－

【ハイライト】

・現預金の減少に伴い流動資産が減少したものの、大きな変化はなし。
・自己資本比率は85.9%。

（単位：百万円）

	05年3月期		06年3月期		07年3月期		
	中間期	通期	中間期	通期	中間期	構成比（%）	備考
固定資産	831	925	1,126	2,659	3,247	55.5	MTIとの契約変更に伴うソフトウェア購入、社内の会議室システム構築
流動資産	1,077	1,908	4,381	3,329	2,603	44.4	現預金の減少（短期貸付金、MTIへの支払）
資産合計	1,908	2,834	5,507	5,989	5,850	100.0	
固定負債	0	14	0	0	70	1.1	MTIの未払金
流動負債	148	766	706	741	752	12.8	
負債合計	148	781	706	741	823	14.0	
資本金	2,061	2,111	3,218	3,367	3,479	59.4	
資本合計	1,759	2,053	4,800	5,247	5,027	85.9	
負債及び資本合計	1,908	2,834	5,507	5,989	5,850	100.0	

07年3月期中間実績（連結）⑤－C/F－

【ハイライト】
・06年3月期より連結決算開始。
・当期純損失のため営業キャッシュフローが減少した。
・財務活動によるキャッシュフローは減少。06年3月期は公募で資金調達を行った。

（単位：百万円）

		06年3月		07年3月	
		中間期	通期	中間期	増減
I	営業活動によるキャッシュ・フロー	－	94	△161	△255
II	投資活動によるキャッシュ・フロー	－	△1,228	△1,181	47
III	財務活動によるキャッシュ・フロー	－	2,939	322	△2,617
IV	現金及び現金同等物に係る換算差額	－	19	8	△11
V	現金及び現金同等物の増減額	－	1,824	△1,011	△2,835
VI	現金及び現金同等物の期首残高	－	1,073	2,898	1,825
VII	現金及び現金同等物の期末残高	－	2,898	1,887	△1,011

07年3月期中間実績（単体）⑥－C/F－

【ハイライト】
・06年3月期下期より連結決算に移行。

（単位：百万円）

	06年3月		07年3月	
	中間期	通期	中間期	通期
Ⅰ　営業活動によるキャッシュ・フロー	40	49	53	－
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	△240	△384	△271	－
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	0	550	2,691	－
Ⅳ　現金及び現金同等物に係る換算差額	2	2	7	－
Ⅴ　現金及び現金同等物の増減額	△198	218	2,480	－
Ⅵ　現金及び現金同等物の期首残高	855	855	1,073	－
Ⅶ　現金及び現金同等物の期末残高	657	1,073	3,553	－

目次

Ⅰ. はじめに／当社事業ご案内

Ⅱ. 中間期実績ハイライト (連結・単体)

Ⅲ. 中間期実績ハイライト (セグメント別)

Ⅳ. 当社の戦略ついて

Ⅴ.参考資料

07年3月期連結中間実績（セグメント別）ー音声事業

ー音声事業ー

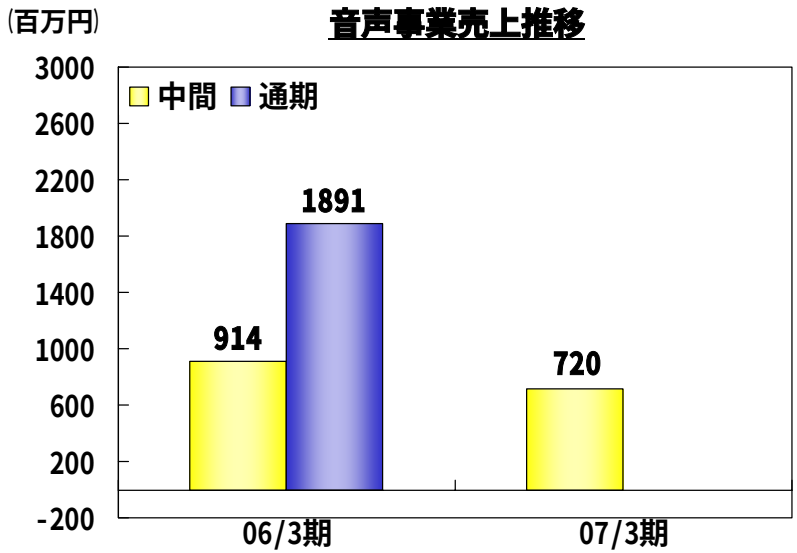
■07年3月中間期実績の概要

1）売上高：　720百万円

2)営業費用：　1,171百万円

3）営業利益：　▲450百万円

・ビジネスチャンス拡大のため、人材や商品力の強化に伴う経費増大で、原価や販売管理費が増加し、収益が赤字。



●トピックス

・ﾏﾝｼｮﾝ入室ｾｷｭﾘﾃｨｼｽﾃﾑの拡販で明和地所、ﾕﾆｵﾝと提携。（4月）
・ｾｶﾞｶﾗ新機種『CANDOONE』が、音声認識技術をｶﾗｵｹﾙｰﾑで本格導入。（株）ｾｶﾞ・M・N社と共同開発。（6月）
・医療向け音声認識ｿﾌﾄｳｪｱ「AmiVoice® Ex」ｼﾘｰｽﾞVer.UP。医療用語辞書を5万語から30万語に拡充。（7月）
・京都流　～京都検定＆ｼﾞｭﾆｱ京都検定応援ｻｲﾄ～「親子で始める～音声認識～京都流ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ」（7月）
・音声認識を活用した新しい入力インターフェースがNTTドコモ　FOMA® M1000に登場
　ビジネス統合ツール「AmiVoice® Mobile Tools - Biz Pack for M1000」を販売（8月）
　　～ビジネスですぐに活用できる便利な機能を搭載～
・声による室内照明や複数のAV機器などを一斉制御「AmiVoice®SceneDirector」登場。（8月）
・AmiVoice®が三菱東京ＵＦＪ銀行のCS担当部署で採用。ﾒｶﾞﾊﾞﾝｸが音声認識ｼｽﾃﾑを活用し、業務の質と効率性を向上(8月）
・歯科電子ｶﾙﾃ向け音声入力ﾊﾟｯｹｰｼﾞ「AmiVoice® Ex Dental」販売開始。(8月）

07年3月期連結中間実績（セグメント別）ーテレマーケティング事業

ーテレマーケティング事業ー

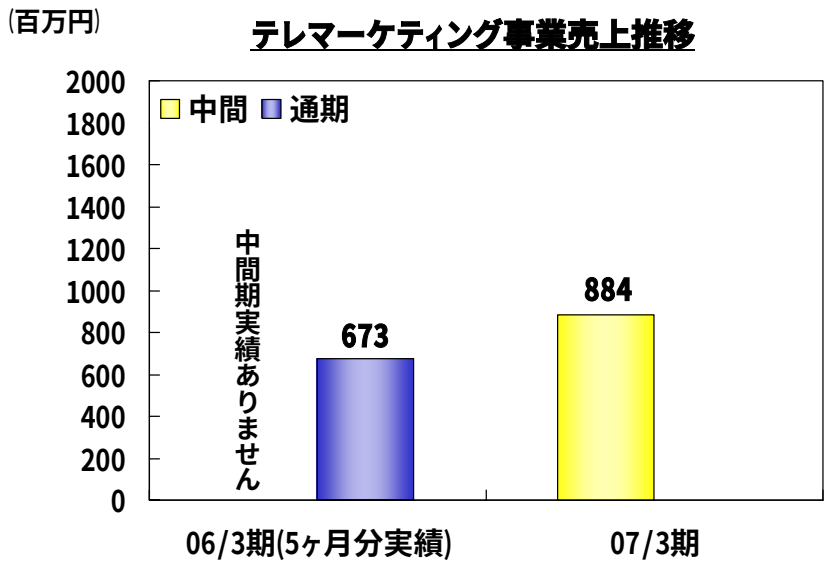
■07年3月中間期実績の概要

1）売上高：　884百万円

2)営業費用：　975百万円

3）営業利益：　▲91百万円

・のれん償却というマイナス要因はあるものの、
　テレマーケティング事業の売上は堅調に推移。
（競合他社よりも売上総利益率が高く、当社は40%という高水準を維持。）



●トピックス

・アウトバンド営業において、電話回線販売やオフィス用品通販等を行う。

・当社音声事業製品の販売も実施。

07年3月期連結中間実績（セグメント別）ーその他事業

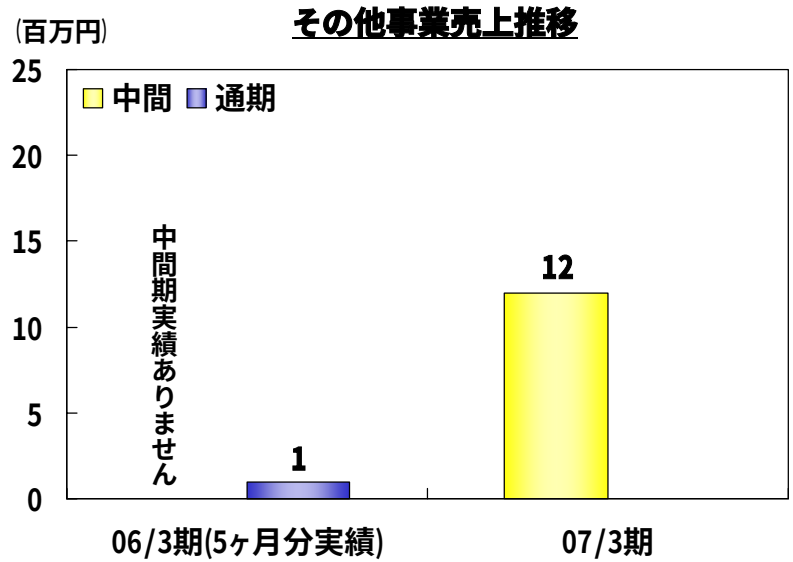
ーその他事業ー

■07年3月中間期実績の概要

1）売上高：　12百万円

2)営業費用：　53百万円

3）営業利益：　▲40百万円



●トピックス

・カスタマイズドボイスドメインの開発販売（グローバルバリューなど）

・ボイスキャピタル・ソリューションを設立。

07年3月期連結通期計画①

ー音声事業ー

・「高収益構造」へのシフト。
ソリューションサポートで開発された製品をライセンス 事業へ、「売切り」からASPへ更にサービスビジネスへ
・ソリューションサポート事業
人材の獲得、提案型営業の強化、CRE (Customer Relationship Establishment)、単位営業ボリュームの向上、開発パートナーの育成
・ライセンス事業
既存製品の品質アップ、商品力の強化、高付加価値の商品開発、販売パートナーの育成
・サービス事業
当社モバイルビジネスの成長イメージ
　ー受託開発により企業ユーザへDSR端末 (PC含む) 、DSR携帯電話の導入加速
　ー他社のサービス事業への採用 (一般コンシューマへ一般携帯電話にて)
　ー当社独自のサービス事業立ち上げ (「しゃべコン」サイト)

07年3月期連結通期計画②

ーテレマーケティング事業ー

・下期も主力の電話回線販売が堅調に推移し、安定収益が期待できるオフィス用品通販（カウネット事業）が順調に進展。

・直販事業を集中的に展開。

・音声事業製品の販売も活発化。

・コールセンタ向け製品の商品力強化。

ーその他事業ー

・ボイスドメインサービスは受託開発を進め、事業提携に基づき新たな広告モデルを開発。

・ボイスキャピタル・ソリューションは投資活動等を活発化。

目次

Ⅰ. はじめに／当社事業ご案内

Ⅱ. 中間期実績ハイライト (連結・単体)

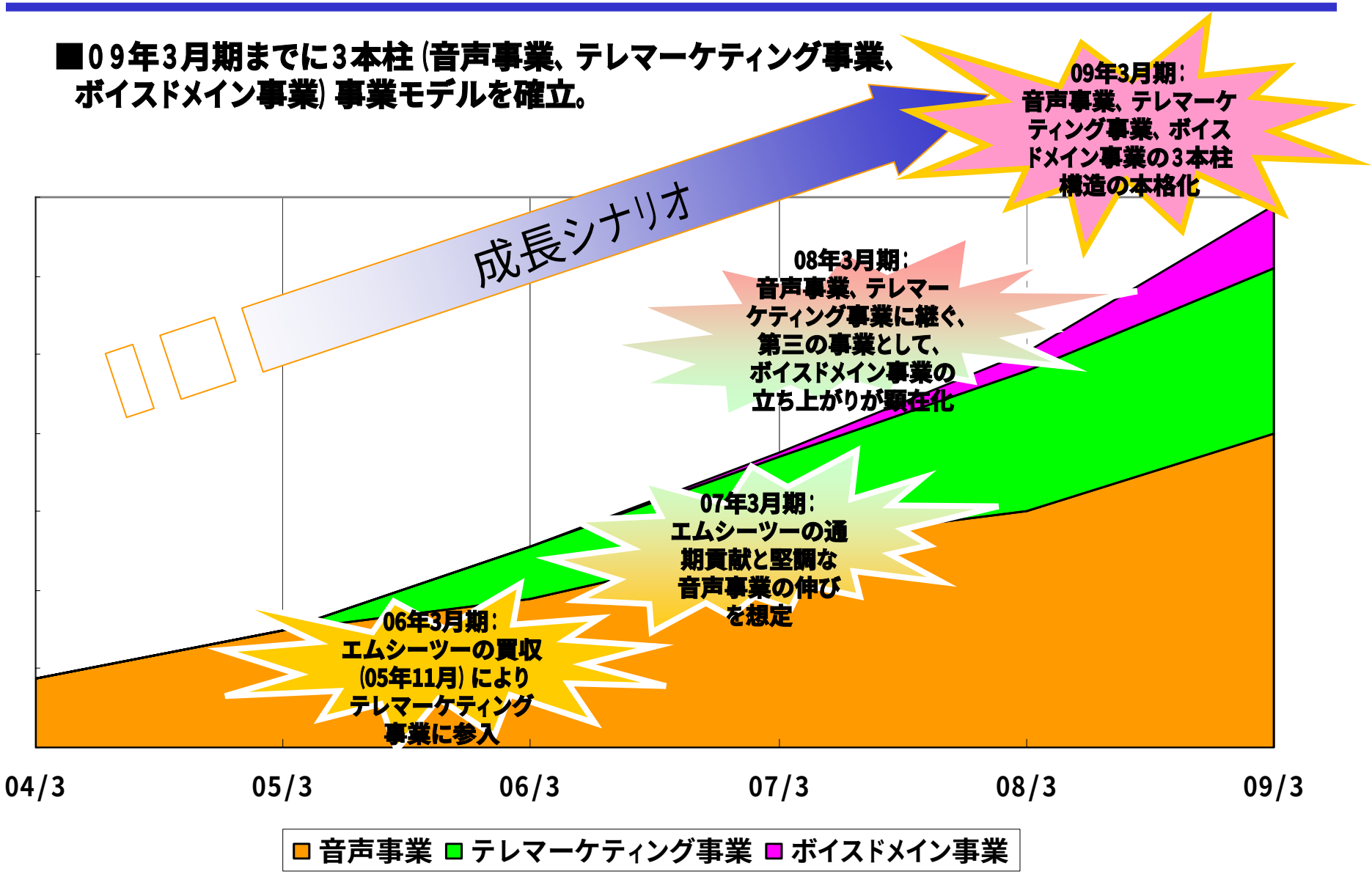
Ⅲ. 中間期実績ハイライト (セグメント別)

Ⅳ. 当社の戦略ついて

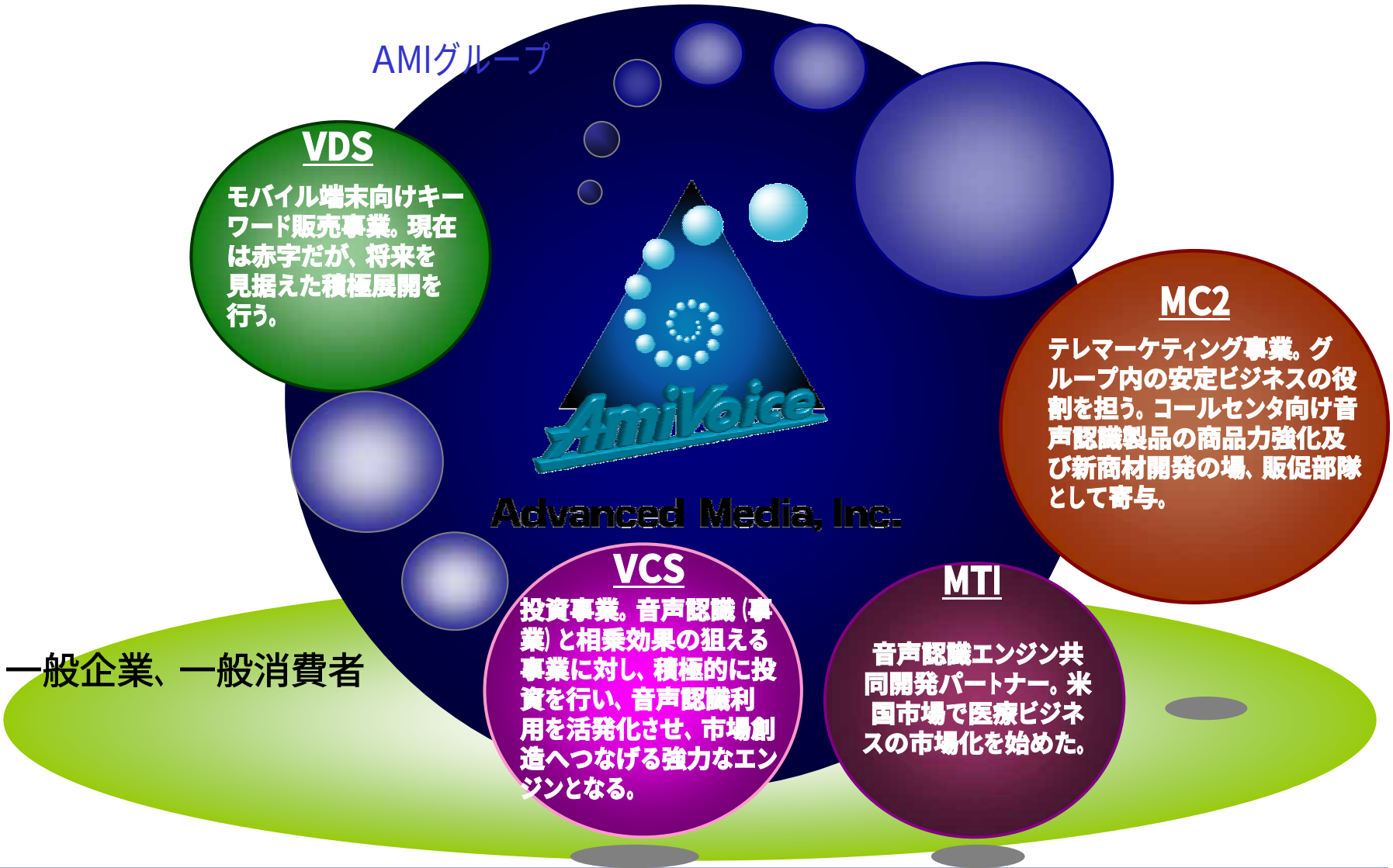
Ⅴ.参考資料

今後3年間（07/3～09/3）の成長シナリオ

■０９年３月期までに３本柱（音声事業、テレマーケティング事業、ボイスドメイン事業）事業モデルを確立。



AMIグループ全体での音声認識の市場創造の取り組み①



AMIグループ全体での音声認識の市場創造の取り組み②

●MTI社との契約について

・7 月4 日、MTI 社との音声認識等技術提供に関する契約の変更。
・ソースコードの入手と要員教育。
共同開発の日本語音声認識エンジンのうちの認識デコーダ部分のソースコードを購入しそれを扱える要員の教育を行った。これにより音声認識エンジンそのものの改良・機能強化を独力で行えるようになり、市場環境の変化や顧客からの様々な要望への対応が従来よりも迅速に行えるようになった。
・MTI 社に委託開発したプログラムを利用した日本語音声認識製品やサービスを、全世界で独占的に無期限に販売できるようになった。

2006年度下半期の営業に向けて

●2006年度上期の営業進捗

・人材の確保と育成を行い提案型営業力を強化
・CTI分野ではAmiVoice Assist、CallScriber、AIRをベースに案件受託
・ビジネス分野のソリューション受託案件では受注額を増大
・既存商品の商品力の強化と新商材の開発
■商品力の強化 ・・・・ AmiReception, Dialer, BizMail, Reporter, Rewriter
■新商材の開発 ・・・・ Scene Director

●下半期の営業に向けて

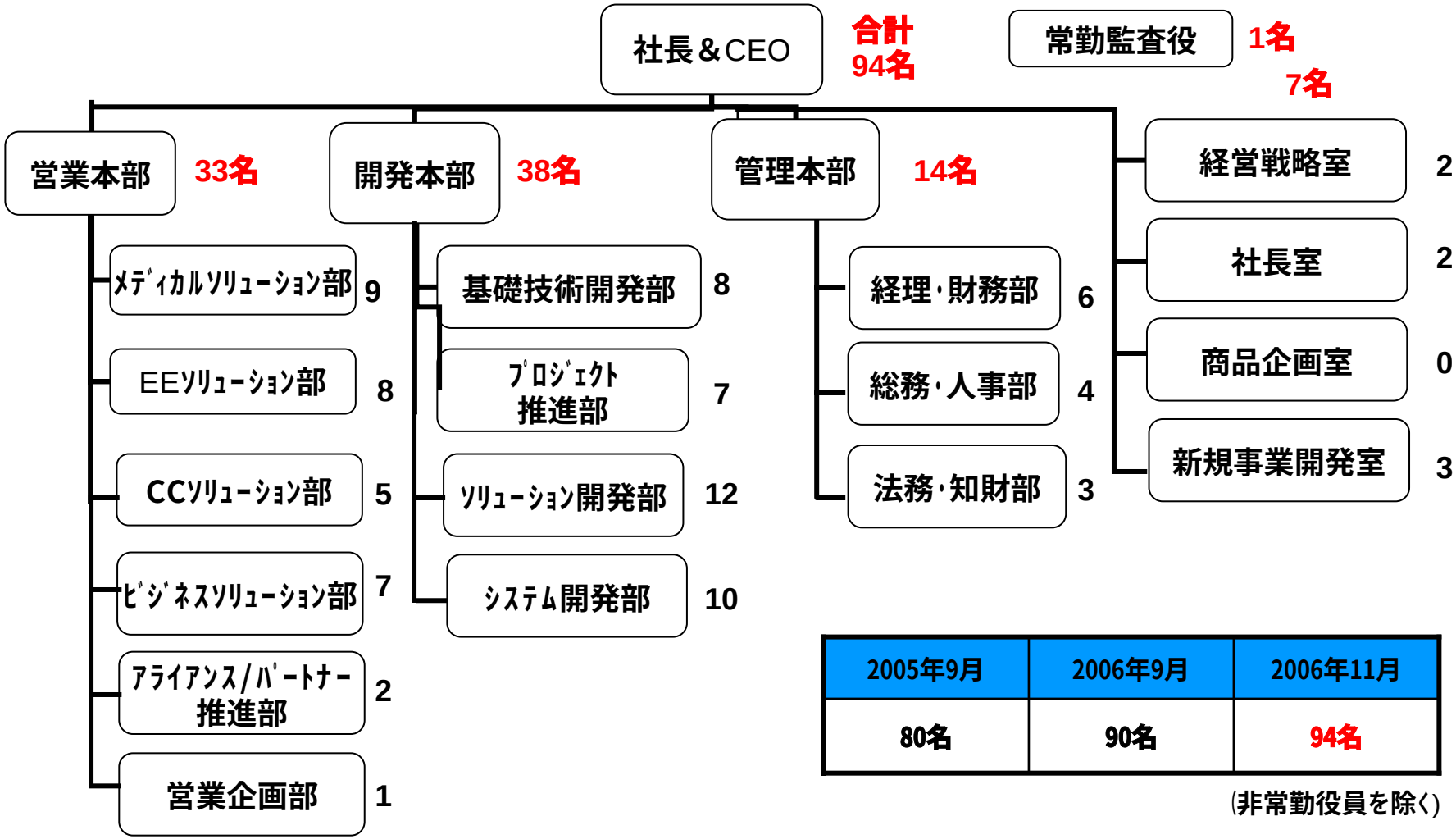
・医療分野の人員増を含む営業強化（特にパッケージ販売）
・CTI分野、ビジネス分野の人員増を含む営業強化（特にソリューション提案）
各営業単位の受注額の増大を図る
・モバイルサービス分野の受託開発の活発化（DSR携帯と従来型携帯向け）
・有力パートナーの編成

●パートナー戦略について

・販売パートナーと開発パートナーを編成
・販売パートナーは当社製品を販売。開発パートナーは当社SDKを導入し、
各社独自の製品を開発し ビジネス化（ランタイム販売、教育）

組織と人員配置

■積極的な人材採用により体制強化を進めています。



2005年9月	2006年9月	2006年11月
80名	90名	94名

(非常勤役員を除く)

目次

Ⅰ. はじめに／当社事業ご案内

Ⅱ. 中間期実績ハイライト (連結・単体)

Ⅲ. 中間期実績ハイライト (セグメント別)

Ⅳ. 当社の戦略ついて

Ⅴ.参考資料

1．会社概要

商号：	株式会社アドバンスト・メディア
所在地：	本社　東京都豊島区東池袋3-1-1　サンシャイン60　48F
設立：	1997年12月
資本金：	34億7,962万円（2006年10月末現在）
発行済株式数：	114,892株
従業員数：	2006年9月末現在　84名（男68名、女16名）
平均年齢：	35.1歳
決算期：	3月
役員構成：	取締役６名
主要株主構成：	鈴木清幸9.0%、トヨタ自動車8.7%、ＳＢファンド3.7%、他

2－1. 沿革

1998年

1月　Interactive Systems, Inc.社（米国）と日本語音声認識システムAmiVoiceの共同開発を開始し、同時にAmiVoiceをベースとした音声認識市場の構築事業に着手。

19990年

3月　AmiVoiceの評価・改良のために「音声認識ソフトウェアの研究コンソシアム（IVSRG）」を結成し、開発支援ツールキットAmiVoice SDK（バージョン1.0）をリリース開始。

2000年

7月　開発支援ツールキットAmiVoice SDK（バージョン3.0）をリリースし、事実上のソリューションサポート事業を開始。本社を東京都豊島区東池袋三丁目１番１号に移転。

11月　ホームページ音声認識アプリケーションAmiVoice Webをリリースし、企業向けのライセンス事業を開始。

2001年

11月　開発委託先である関連会社Multimodal Technologies, Inc.社(米国)設立。Interactive Systems, Inc.社をMBOによりMultimodal Technologies, Inc.社に吸収。当社より、取締役2名を派遣。

2002年

3月　ゲーム機（XBOX、PS2）で稼動するAmiVoiceをリリース。同時に、通信をベースとした分散型音声認識AmiVoice/DSR(Distributed Speech Recognition)を発表。更に、医療分野での音声入力の先駆的パッケージである放射線画像診断レポート用音声認識アプリケーションAmiVoice Medical for Radiologyをリリース。

10月　AmiVoice DSRによりPDAでディクテーションが可能となるAmiVoiceDSR for Dictation/PDA　をリリース。

11月　サーバークライアント型音声認証アプリケーションAmiVoice ID（現AmiVoice Mobile Verification）をリリース。

2－2. 沿革

2003年

4月　簡単手元操作で高速処理が可能な医療用書き起こしアプリケーション「AmiVoice Medical Scribe」をリリース。医療分野を始めとして、販売パートナー制の施行を開始。

5月　汎用性のあるPCプラットフォームで音声認識アプリケーション製品開発が可能な開発支援ツールキットAmiVoice SDK（バージョン5.0）をリリース。

8月　議事録作成支援アプリケーションAmiVoice Rewriter、コールセンタ向け通話録音のテキスト化アプリケーションAmiVoice CallScriber及び営業日報作成支援アプリケーションAmiVoice Reporterなどのアプリケーションをリリースし、高付加価値のライセンス事業を開始。

2004年

3月　医療向け電子カルテアプリケーションAmiVoice Ex(Hospital/Clinic)をリリース。

5月　AmiVoice Rewriterが地方議会の本会議、委員会で運用開始。

6月　音読型日本語学習アプリケーション及び対話型英会話練習アプリケーションの販売開始。

10月 AmiVoice DSRのフロントエンドをASICチップ化し、携帯電話への実装に成功。

2－3.沿革

2005年

1月　調剤薬局の服薬指導分野に音声認識アプリケーションAmiVoice Ex Pharmacyをリリース。

2月　日本人学習者向け英語発音矯正アプリケーションAmiVoice CALL-pronunciation-の発売開始。

3月　愛知万国博覧会に当社の対話技術を装備した4カ国対応の受付案内ロボット（アクトロイド）をリリース。

6月　東京証券取引所マザーズ市場に上場。北海道議会など地方議会に議事録作成支援システムを多数導入開始。

7月　音声による携帯電話でのインターネット検索サービスを行う子会社　株式会社ボイスドメインサービスを設立。

10月　業界最高認識率の電子カルテ向け音声入力ソフトAmiVoice Ex Clinicを、更なる普及を目指し大幅値下げ。
当社の経営基盤拡大のため、エムシーツー株式会社を子会社化。

2006年

3月　ビジネスメール文章入力ソフトAmiVoice Ex BizMail 発売開始。

4月　声紋認証による自動開錠システム「開けドアシステム」を提供。

8月 AmiVoiceソリューションやサービスを活用し、事業の構築・拡大を図る企業へ投資やコンサルティングを行う子会社
株式会社ボイスキャピタル・ソリューションを設立。
NTTドコモビジネスFOMA「FOMA® M1000」向け音声入力ビジネス統合ツールをASP形式にて発売開始。

9月　音声認識による室内機器音声コントロールシステムAmiVoice SceneDirector を発売開始。

10月　優れた起業家を称え、ロールモデルとして紹介する国際的な起業家表彰制度「アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」
の日本代表に鈴木清幸社長が選ばれる

3．株主構成（9月末）

＜役員・事業会社＞

株主名	持株数	持株シェア
鈴木　清幸	10,340	9.0%
トヨタ自動車	10,000	8.7%
ポプラ社	1,592	1.4%
富士通	1,500	1.3%
安斉哲夫	800	0.7%
大阪証券金融(業務口)	734	0.6%
新川電機	650	0.6%
野村證券	497	0.4%
自然応用科学	490	0.4%
日本証券金融(業務口)	388	0.3%
新日本実業	300	0.3%
ラムーント	300	0.3%
ライツコア	296	0.3%

＜VC・ファイナンス・投資組合＞

株主名	持株数	持株シェア
SBファンド2号	4,260	3.7%
SBファンド3号	1,040	0.9%
SBファンド1号	1,000	0.9%
MSC3号投資事業組合	1,000	0.9%
ザ　バンク　オブ　ニューヨーク　トリティー　ジャスデック	950	0.8%
MSC4号投資事業組合	775	0.7%
ザ　バンク　オブ　ニューヨーク　ノントリティー　ジャスデック	746	0.6%
ノムラ　インターナショナル　ピー　エルシー　アカウント	600	0.6%
野村信託銀行（投信口）	588	0.5%
ロンバート　オーディエ	570	0.5%

総顕在株数：　114,892

4－1. 医療の実績と今後

●医療　2006年度上期の実績

・歯科向けカルテを9月より発売。

・ *AmiVoice® Ex*をバージョンアップで拡販へ。(7月)

・電子カルテ向け音声認識ソフト診療所・病院向け。
(上期107施設導入。累計420施設　平均単価26万円)

・放射線画像診断レポート音声認識システム病院向け。
(上期56施設導入。累計478施設　平均単価111万円)

・調剤薬局向け (上期70施設導入。累計846調剤薬局　平均単価60万円)

・医薬施設全体 (上期235施設に導入、累計約1800施設　平均単価36万円)

４－２．医療の実績と今後

●医療　2006年度下期の動き

・主力5製品のさらなる拡販

-放射線科ライセンス

-調剤薬局ライセンス

-診療所ライセンス

-病院ライセンス

-歯科向け電子カルテ

・新製品の投入

-医薬品辞書

-Dialer for Medical

・サーバ開発

-院内デジタルトランスクライブ運用→米国流の院外トランスクライブサービス事業の中核システムを目指し開発

・サービス事業の開始

-読影トランスクリプションサービス

5－1. エンターテイメント／教育の実績と今後

●ゲーム/エンタテイメント/教育　2006年度上期の実績

・ゲーム/エンターテインメント分野

-オンラインゲーム開発、ロボット、ゲームソフトのライセンス販売など

-セガ・ミュージック・ネットワークスのカラオケゲーム向けライセンス販売

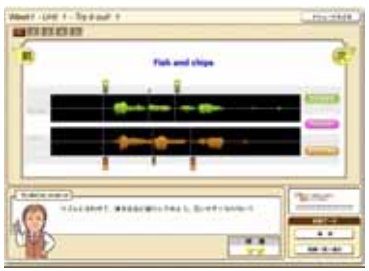
・教育分野

-語学通信講座（アルク社）、「楽しい脳トレ」（中央情報システム）へライセンス販売。

-大学・高校向け英語発音評定システムの販売（20施設に導入済み。内田洋行が代理店）

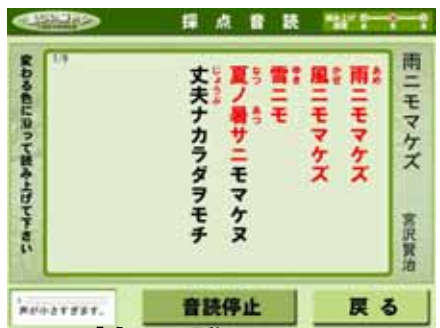
-ＰＣパッケージライセンス販売（IEインスティテュートなど）パッケージ単価は約1万円。

-京都流　～京都検定＆ジュニア京都検定応援サイト～「親子で始める～音声認識～京都流トレーニング」



ヒアリング力完成
発音トレーニング
アルク

セガカラの新機種
『CANDOONE』



「楽しい脳トレ」
中央情報システム

声にだして覚える英会話

IE Institute

5－2．エンターテイメント／教育の実績と今後

●ゲーム/エンタテイメント/教育　2006年度下期の動き

・セットトップボックス向けのライセンス販売、受託開発

・ゲーム/エンターテインメント分野

-次世代ゲームソフト・業務用ゲームのライセンス販売、受託開発など

-PCパッケージのライセンス販売、受託開発など

-分散型音声認識DSRを利用したコンテンツ開発

・教育分野

-大学・高校向け英語発音評定システムのバージョンアップを予定

-教育コンテンツの ライセンス販売

-PCパッケージのライセンス販売、受託開発など

イメージ　見出し語一覧

総合百科事典
『デジタルポプラディア』

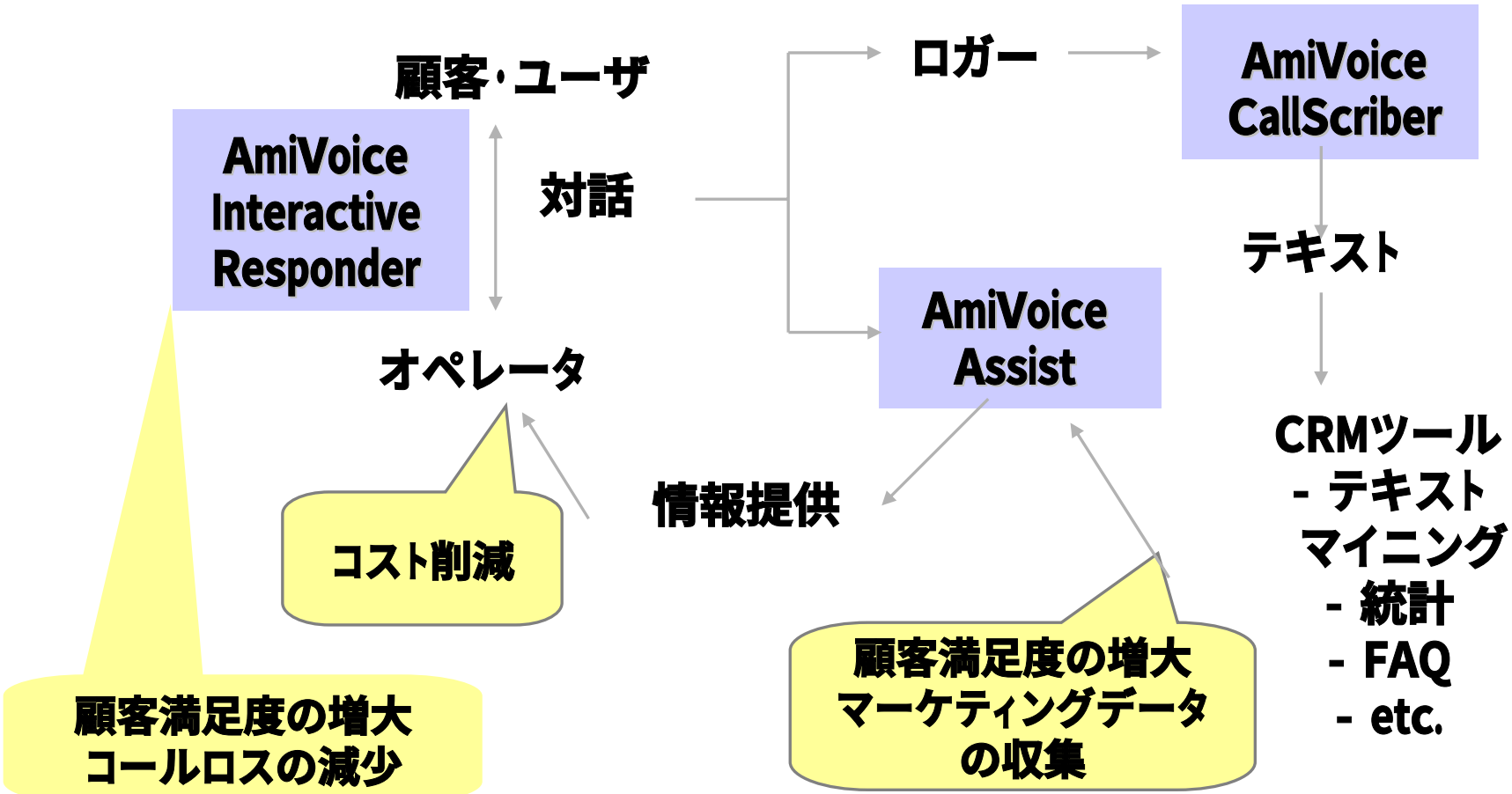
AmiVoice CALL
-pronunciation-

６－１．テレフォニーインテグレーションの実績と今後

●ＣＴＩ（コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション）

・金融・証券・医薬系に導入。

・運用に向けてコンサルテーション、システムインテグレーションの実施



6－2．テレフォニー・インテグレーションの実績と今後

●ＣＴＩ（コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション）　2006年度上期の実績

客先名	導入製品	導入目的
三菱東京UFJ銀行	AmiVoice Assist、CallScriber	お客様相談部：検索・モニタリング効率化、TrueTellerと連携したテキストマイニング（お客様の声の分析）、音声入力による効率化（アンケート入力）
金融A	ＩＶＲ	為替情報などの問い合わせの自動化、24時間対応
証券B	通話録音装置	AmiVoice CallScriber導入の録音（データ収集）開始
製薬Cコールセンタ	AmiVoice Assist、CallScriber	録音、検索効率化、レポーティング・マイニング目的としたテキスト化
損保Dコールセンタ	通話録音装置	事故受付業務の効率化のためのAmiVoice CallScriber導入の録音（データ収集）開始
金融Eコールセンタ	AmiVoice Assist、CallScriber	コンプライアンス強化、感情認識を組み合わせたCS向上、オペレータストレス把握
証券Fコールセンタ	AmiVoice Assist：実務評価実験実施	①後処理業務効率化、②ＮＧワードチェック
製造Ｆ	AmiVoice CallScriber	マイニングによるお客様の声の分析

●ＣＴＩ（コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション）　2006年度下期の動き

特に金融・証券・損保などを中心に展開

●AmiVoice CallScriber　評価中、データ収集中顧客を含め１０社以上に導入を目指す
●AmiVoice Assist　コンプライアンス、ＯＰ対応品質向上、効率化などで１０社以上に導入を目指す
●IVR　（株価・為替）問合せ、一次受付振分など５社以上に導入を目指す

■メッセージワン社感情認識ソフト、NRI社マイニングソフトとの連携進行中
■IP電話ソリューション（情報検索、電話ディレクトリー検索、IVR）を重点に展開

7．議事録の実績と今後

●議事録

・議会向け議事録作成支援システム

国　機　関
一部試験稼働中、他機関へも順次導入予定

地方自治体
2006年度上期は4自治体に導入
各種地方自治体の導入予定

・民間企業向け議事録作成支援システム

一般会議（経営会議など）議事録作成支援
商社、銀行、証券、IT関連企業などに対し、
開発、試験運用開始
2006年度上期は1銀行に導入
下期はJ-soxを背景に銀行に展開予定

8．ビジネスソリューションの実績と今後

●ビジネスソリューション　製品ごとの2006年度上期実績と下期の動き

AmiReception

受付業務の効率化をする音声自動応答装置。

・2006年度下期は商業施設や公共施設などでの案内・情報検索への展開や受付ロボットとの連携・搭載を目指す。広告、情報配信ユニットとしての展開もトライ。

AmiVoice　SceneDirector

マイクに話すだけで会議室の照明や複数のAV機器などを一斉制御

・2006年9月よりリリース。2006年度下期から販売パートナーを通じて本格販売へ。平均単価は400万円。

・下期からは医療、学校、ホテルなどマーケットを広げて本格販売予定。

9．モバイルの実績と今後

●モバイルサービス　2006年度上期の実績

・サービス事業を開始

－音声認識を活用した新しい入力インターフェースがNTTドコモ　FOMA® M1000に登場

ビジネス統合ツール「AmiVoice® Mobile Tools - Biz Pack for M1000」を販売（8月）

～ビジネスですぐに活用できる便利な機能を搭載～

－カスタマイズドボイスドメインの開発販売（グローバルバリューなど）

●モバイルサービス　2006年度下期の動き

・AmiVoice Mobile Tools - Biz Pack

－2006年8月にM1000版をリリース、その他のDSR端末版を順次リリース

・サービス開発の受託

・ボイスドメインサービス

－VDアプライアンスサーバの販売とそれによるカスタマイズドボイスドメインの開発販売

－声ナビサービスとプロモーションジャンプキーワードの販売

－新たなアフィリエイト広告モデルの開発（アドウエイズなど）

－「しゃべコン」（しゃべると便利コンテンツ）サイトの運営

１０．セキュリティビジネスの実績と今後

●セキュリティビジネス　声紋認証　2006年度上期の実績

・明和地所がマンションのエントランスに声紋認証の開閉システムを導入
(2006年6月より)

－キーワード認証方式 (Active Biometrics)

－2007年3月より運用開始予定

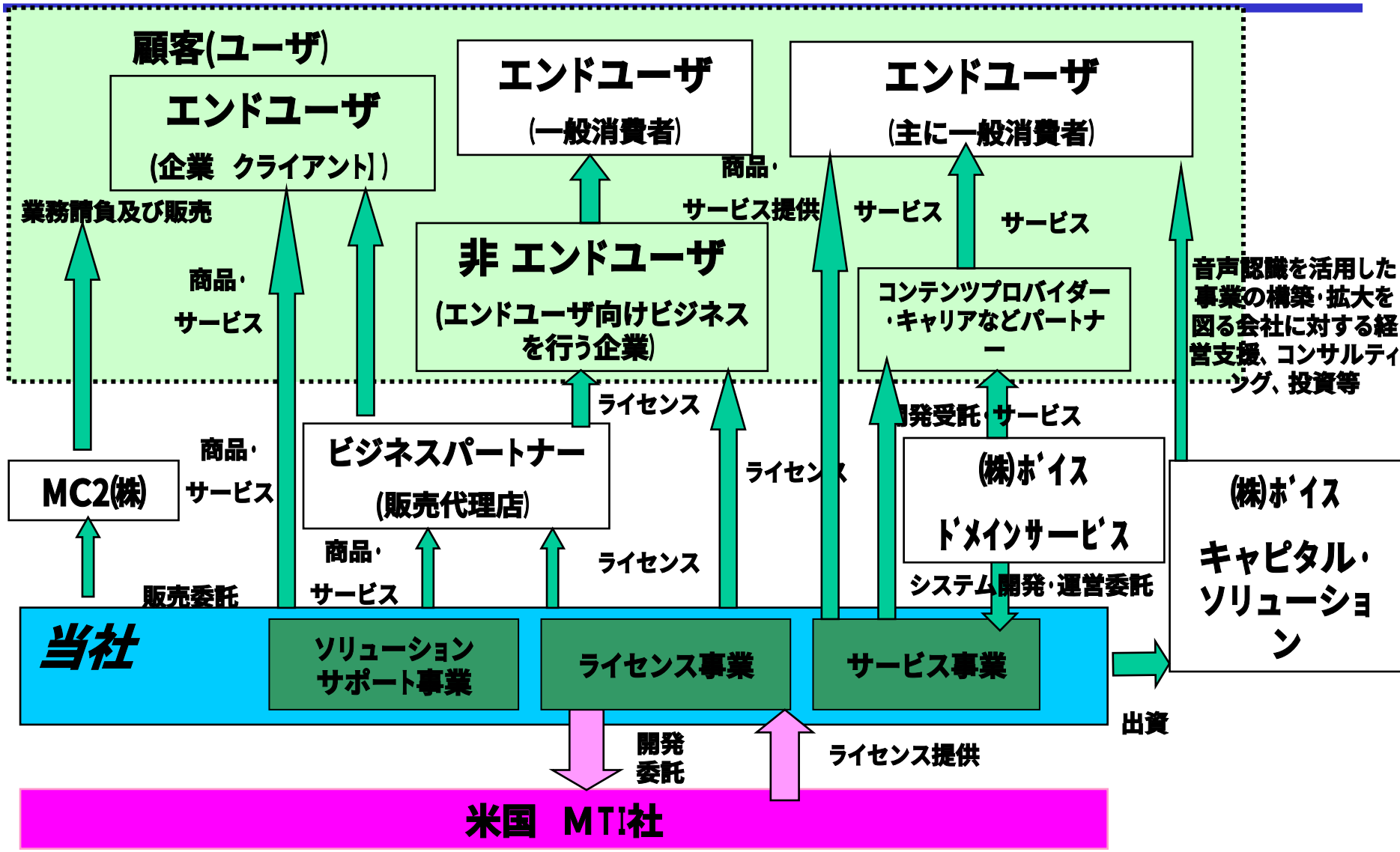
●セキュリティビジネス　声紋認証　2006年度下期の動き

・マンション向け声紋認証システムを販売
－ユニオン様とともにマンションデベロッパーに販売

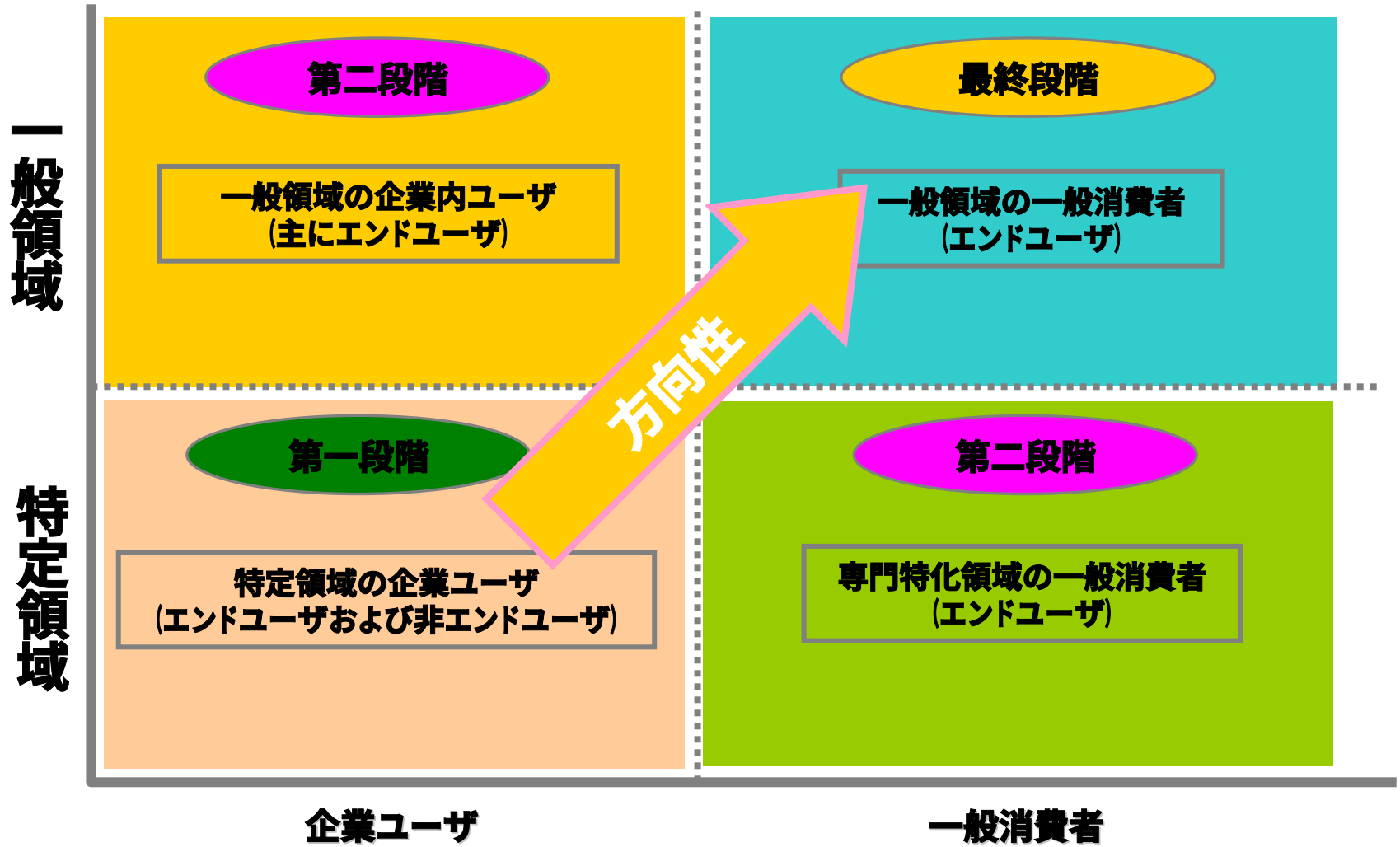
・オフィスのドアのセキュリティーとしても販売

・上記マーケットに加え、勤怠管理、オンライン系の情報セキュリティーにもさらに拡大予定

11. ビジネスモデル


顧客(ユーザ)
エンドユーザ
(企業　クライアント)
エンドユーザ
(一般消費者)
エンドユーザ
(主に一般消費者)
業務請負及び販売
商品・
サービス
商品・
サービス提供
サービス
サービス
非 エンドユーザ
(エンドユーザ向けビジネスを行う企業)
コンテンツプロバイダー・キャリアなどパートナー
音声認識を活用した事業の構築・拡大を図る会社に対する経営支援、コンサルティング、投資等
ライセンス
開発受託・サービス
商品・
サービス
MC2(株)
ビジネスパートナー
(販売代理店)
ライセンス
(株)ﾎﾞｲｽ
ﾄﾞﾒｲﾝｻｰﾋﾞｽ
(株)ﾎﾞｲｽ
キャピタル・ソリューション
商品・
サービス
ライセンス
システム開発・運営委託
販売委託
当社
ソリューションサポート事業
ライセンス事業
サービス事業
出資
開発
委託
ライセンス提供
米国　MTI社

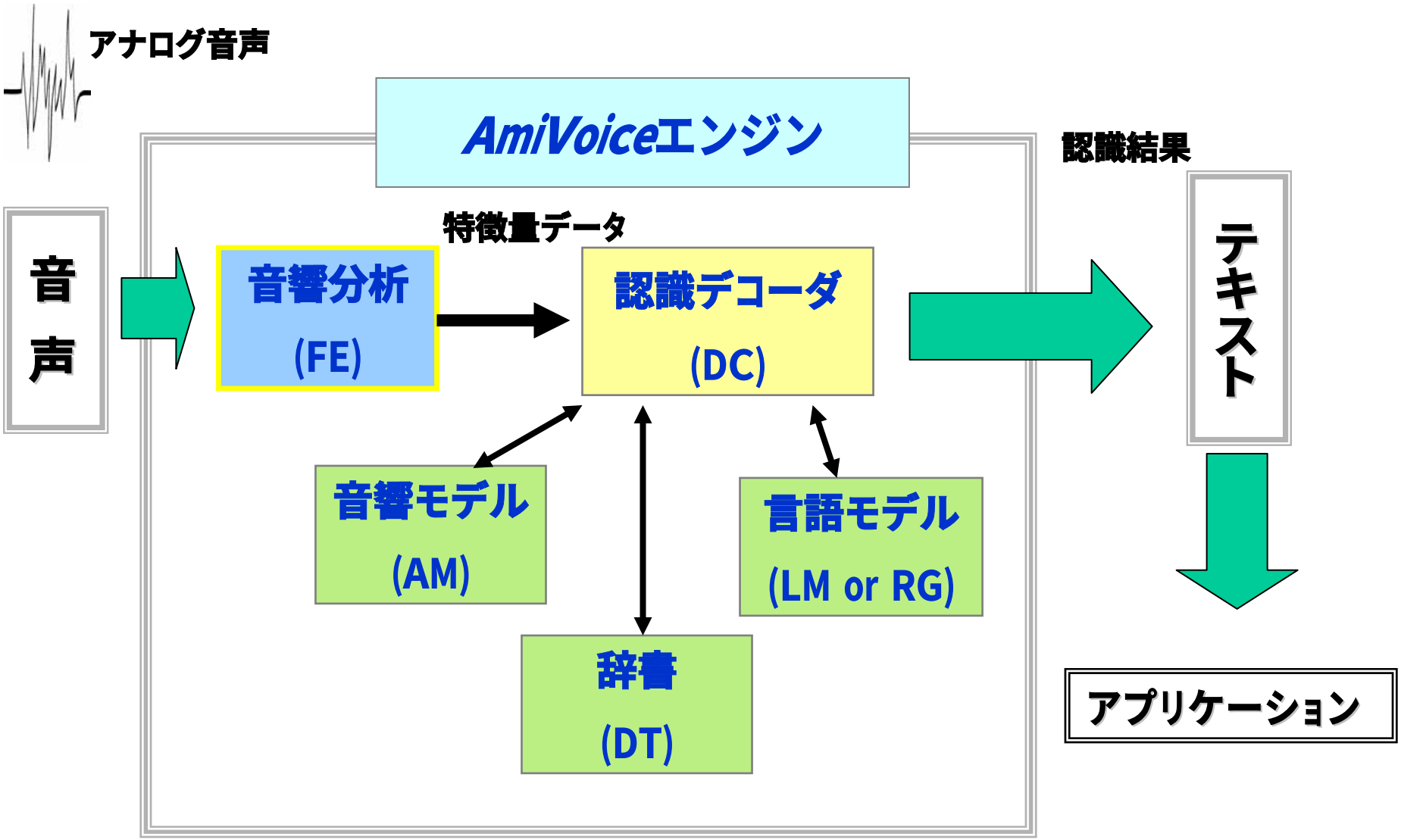
12. ビジネス展開構想


一般領域
特定領域
第二段階
一般領域の企業内ユーザ
(主にエンドユーザ)
最終段階
一般領域の一般消費者
(エンドユーザ)
方向性
第一段階
特定領域の企業ユーザ
(エンドユーザおよび非エンドユーザ)
第二段階
専門特化領域の一般消費者
(エンドユーザ)
企業ユーザ
一般消費者

13. 差別化のポイント

他社の市場化
一般領域
- 事前トレーニング要
- 一般言語モデル
- 特化型音響モデル
低い認識率、
事前トレーニングが面倒
↓
使われない!!
一般消費者の利用:
ゲーム・エンタテインメント、
携帯電話
マス・マーケットへの拡がり
AMIの市場化
「使える」
「便利」
「ありがたい」
企業内ユーザの利用:
医療、コールセンタ、
ビジネスソリューション等
領域特化
- 事前トレーニング不要
- 領域特化言語モデル
- 一般音響モデル
話者特定
不特定話者

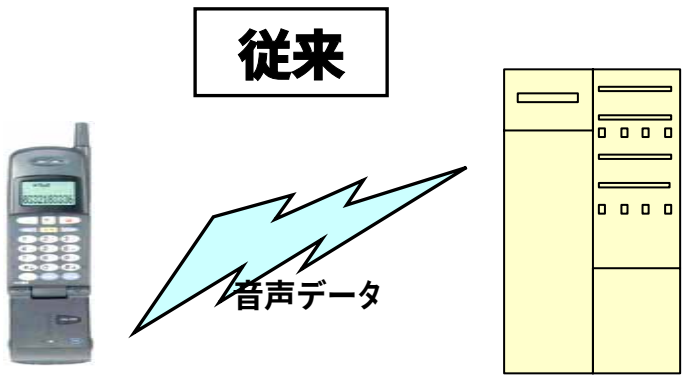
１４．AmiVoiceエンジン構造



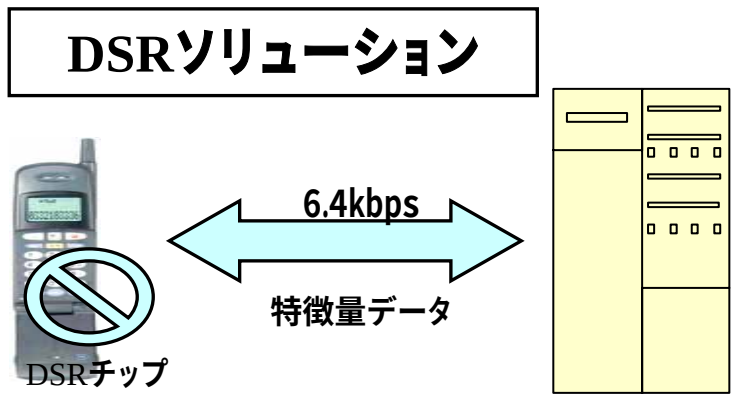
１５．AmiVoiceDSRとは

DSRによる音声データのハイクオリティー化

- DSR (Distributed Speech Recognition) ソリューションとは、デバイスとサーバーに分割された音声認識システム。
- デバイス側でインプットされた音声は、「特徴量データ」に変換され、それがパケット送信されるので従来の劣化がなく、ノイズが混入する余地も少なく、かつ、通信方式がTCP/IPであることによりパケットロスの影響も受けにくいため音声認識精度が高い。
- 1/30以下の圧縮率に相当する軽いデータとして送信される。（従来は1/5～1/10）



電話機から音声データが送信される際、圧縮により音声データが劣化、サーバーにおける音声認識が難しくなり、精度が悪化する。



デバイス側で音声データの劣化なしで音声認識の前処理が完了するため、高精度の音声認識が実現できる、しかも、伝送量は小さい。

１６.音声認識技術のロードマップ

1G:　単語認識　(1960～)

2G:　LVCSR　(1991～)

3G：　Robust　(2001～)

4G：　Multi-Modality　(2007～)

5G：Understanding　(2011～)

世代(G)のポイント

3G:　不特定話者性、スピードの変化、抑揚、アクセントの違いに対応

4G:　2-3m離れても認識可能

5G:　自然対話、知的推論機能

実用化の始まり

普及

アタリマエの世界

ありがとうございました

株式会社アドバンスト・メディア
社長室

〒170-6048
東京都豊島区東池袋3-1-1
サンシャイン60 48F
TEL:03-5958-1031(代)
FAX:03-5958-1032